

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立業平小学校
校長名	山 田 明

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">各学年学習状況調査の結果はおおむね満足できる。目標値よりも低い項目数は8で5ポイント以上上回っている項目数は35である。昨年度課題であった言語事項の平均正答率が各学年向上しており、2.3年では5ポイント以上の向上が見られた。経年変化では4年生の向上が見られた。	<p>理科 実験内容が知識に結びつかない。何のために実験をしているのか、理解できずに活動していることが見受けられる。</p> <p>社会 調べ学習についても、調べた内容が知識に結びついていない。何のために調べているのか、調べて終わっていることで知識として身につけていないことが分かる。</p> <p>二極化 基本的な知識・技能が低い児童は、諦めてしまっている傾向がある。最後までテストに取り組むことができない。</p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">国語・算数・社会の主体的に学習に取り組む態度はおおむね良好。	<ul style="list-style-type: none">理科の主体的に学習に取り組む態度は他教科と比べると今ひとつである。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">学級の規範意識は良くなってきていると感じている。また、成功体験を喜ぶ姿勢があるので、その点を上手に指導に生かしていきたい。	<p>家庭との連携について 家庭が安らぎの場になっていない子供が多いことに驚く。学校便りや保護者会を通じ、家庭での指導のあり方を再確認したい。</p>

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 各教科の関心・意欲・態度と学習環境の向上

- ・机上だけの学習ではなく、実際に体験を通したり、その道のプロの話を知ったりすることで学習に関する好奇心を向上させる。また、体験がただの体験にすることなく、体験する必然性を児童に与える事前学習をしっかりとするとや体験が自分自身の知識や考え方構築につながるような事後学習をきちんと行う。
- ・スモールステップで目標を設定する。少しでも自分自身ができるようになったと思えるような肯定的な評価を続け、主体的に学習に取り組む意識を高めていく。
- ・他者受容感・自己評価・自己受容感を高めるために児童の小さな変化に気づき、声をかける。児童の気持ちに寄り添うと共に、つまづきに応じた指導を行う。
- ・ICT機器、タブレット端末を積極的に活用し、個々に応じた

(2) 言語についての知識・理解・技能のさらなる向上

- ・漢字検定などの外部検定などを活用して、自分の目標を達成できるように家庭とも連携し、関係資料の配布・啓発を行う。
- ・言語事項や計算などの基本的な知識・理解・技能に関しては放課後学習で個別の指導を行う。また、ICT機器を活用したり、家庭と連携したりしてドリルなどの計画的な反復練習を行う。

(3) 問題解決型の学習活動の展開

- ・各教科で問題解決的な手法を取り入れた学習活動を展開する。(後期に最低1単元は行う)
- ・学習過程の構成を問題・課題の把握→解決方法・手段の準備・計画→解決活動→結果・考察→発表・共有などとし、この経過の過程を評価することで意欲向上を図り問題解決の力を高める。
- ・各学年実験観察の技能が十分でない。なぜその実験をする必要があるのかを理解せずに実験を行っている事が考えられる。また、実験で正しい結果が出ないときに反証して何がいけなかったからなのかを共有していないからではないかと考える。コロナ禍で時間的に制約があるが、問題解決型の学習活動を展開し、科学的なものの考え方や問題解決力の向上を目指す。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各学年、理科3項目のすべてで全国平均を上回る。
- ・各学年国語・社会・算数の全項目で全国平均を5ポイント以上上回る。